

授業科目 (科目ID)	統計処理 23p301	担当教員 (実務経験)	吉田 香織 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	卒業研究に向けて、文献検索・統計処理方法を学び、実践する。プレゼンテーション技術の向上を目標とする。最終的には、ツールを使用した効果的な発表方法を身につけ、卒業論文への足がかりとする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Power Pointを用いたプレゼンテーションを作成することができる。 Excelを用いた基本的な統計学的手法について実施できる。 				
テキスト・参考図書等	15レクチャーシリーズ、リハビリテーション統計学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物にて評価。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	100%			
その他	%				
履修上の留意事項	この科目で学んだことが卒業研究に活かされる。講義と演習を組み合わせるため、積極的に実践すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	統計処理の実際1	代表値の算出、グラフの作成		
	2	統計処理の実際2	t検定の手順(1)		
	3	統計処理の実際3	t検定の手順(2)		
	4	統計処理の実際4	t検定の手順(2)		
	5	統計処理の実際5	散布図、相関係数		
	6	統計処理の実際6	分割表・まとめ		
	7	プレゼンテーション、資料作成1	スライドの編集、ビジュアル効果		
	8	プレゼンテーション、資料作成2	資料作成、リハーサル機能等の各種操作、プレゼンテーション資料の制作と活用		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	社会福祉学 23p303		担当教員 (実務経験)	鈴木 道代 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	社会福祉とは何か、それを必要とする人々や生活とはどういう状況であるかを理解することが目的である。また、現在の社会福祉の理念、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系についても学習する。以上を踏まえて、現代社会において社会福祉を必要とする人々への理解を深めてもらいたい。					
到達目標	①「社会福祉」という概念を理解できる。 ②生活との関連で社会福祉を必要とする対象者を理解できる。 ③様々な社会福祉法制・サービス体系を理解し、その概略を説明できる。 ④①～③の理解を通して生活における社会福祉の必要性を説明できるようになる。					
テキスト・参考図書等	プリント配布(各自ファイリングし、毎回持参すること) なお、公欠以外のプリント再配布はしない 参考書:『社会福祉用語辞典』山縣文治ら編(2013)ミネルヴァ書房、『現代の社会福祉』鈴木幸雄編(2012)中央法規 など					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	90%	定期試験、提出物点を合算して評価を行う			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	10%				
	その他	%				
履修上の留意事項	後半の授業では視聴覚機材を用いる。また、学生に意見を求める場合、積極的な発言を求める。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション 社会福祉の意義①～社会福祉とは何かを考える	・授業の説明 ・社会福祉の定義			
	2	社会福祉の仕組みと生活①～生活概念を学ぶ	・生活概念について			
	3	社会福祉の仕組みと生活②～社会福祉の仕組みと対象者、法的枠組みを学ぶ	・社会福祉の対象を学生に確認する ・社会福祉の対象について説明する ・社会福祉法、社会福祉法制について説明する ・社会福祉の利用形態・給付形態を説明する			
	4	社会福祉の利用形態と援助方法①～社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点について学ぶ	・社会福祉を担う専門職 ・ソーシャルワークの視点 ・コミュニケーションの構成要素			
	5	社会福祉の利用形態と援助方法②～社会福祉で活用する援助方法を事例から学ぶ	・個別援助技術について説明 ・バイステックの7原則 ・関連援助技術			
	6	現代社会の変化～現代社会の人口動態や家族構成の変化を学ぶ	・年齢3区分 ・少子社会・高齢社会の現状 ・家族形態の変化・家族観・機能			
	7	児童家庭福祉①～児童家庭福祉の概要と児童虐待防止法を学ぶ	・児童福祉の概念 ・児童福祉法・児童憲章 ・児童虐待防止法 ・児童養護施設(DVD視聴)			
	8	児童家庭福祉②～ひとり親家庭への支援と特別養子縁組を学ぶ	・ひとり親家庭の実態と施策 ・特別養子縁組について(DVD視聴)			
	9	障害者福祉①～障害概念とノーマライゼーションを学ぶ	・障害概念 ・ノーマライゼーション (DVD視聴)			
	10	障害者福祉②～障害者福祉の対象、就労、障害者差別解消法を学ぶ	・障害者福祉の対象 ・障害者雇用促進法 ・障害者差別解消法 ・DVD(発達障害)視聴			
	11	低所得者福祉①～貧困概念とその現状、貧困の連鎖について学ぶ	・絶対的水準論、相対的水準論 ・集団の連鎖(DVD視聴)			
	12	低所得者福祉②～生活保護の概要、実態、生活困窮者自立支援の概要を学ぶ	・生活困窮者自立支援(DVD視聴) ・生活保護法			
	13	高齢者福祉①～介護保険制度の概要を学ぶ	・介護保険制度			
	14	高齢者福祉②～高齢者概念と老化、生きがいについて学ぶ	・高齢者の定義 ・老化と生きがい			
15	高齢者福祉③～認知症高齢者の現状を学ぶ	・高齢期の身体的特性と精神的特性 ・DVD視聴				

授業科目 (科目ID)	薬理学 23p304		担当教員 (実務経験)	竹本 功 薬学博士。道内医科大学病院等にて薬剤師として40年以上の勤務経験を有する		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	患者のQOL改善には職能間での情報交換が必要であり、特に医薬品の関与が欠かせず、その基本的な知識により幅広い情報提供ができること。					
到達目標	1) 医療人として、医薬品の重要性を理解すること。 2) チーム医療の一員として、主な医薬品の主作用と副作用、取扱い、薬物療法の習得をすること。					
テキスト・参考図書等	わかりやすい 薬理学 第3版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上が合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	2コマ単位で授業を進行する。講義終了5～10分前に復習を行う。特に、総論・末梢神経作用薬・中枢神経作用薬・抗炎症薬・ホルモン系作用薬・抗感染薬を中心に講義をする。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	総論(1)	薬理学の概念、主作用と副作用、薬物動態と薬効			
	2	総論(2)	小児・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の規制と保管・管理			
	3	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬①	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬			
	4	中枢神経作用薬②、循環器系作用薬①	向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、降圧薬、心臓作用薬、腎臓作用薬			
	5	循環器系作用薬②、抗炎症薬	血液造血管系作用薬、非ステロイド性消炎鎮痛薬、その他			
	6	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、胃炎・抗消化性潰瘍薬、催吐薬・制吐薬、催下薬			
	7	ホルモン系作用薬、抗感染薬	糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、抗菌薬			
	8	消毒薬・抗がん剤、補習	種類と使用方法・抗がん剤、プリント・スライド			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	チーム関係論 23p305	担当教員 (実務経験)	目黒 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として14年勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学び、関連他職種に対する理解を深める。				
到達目標	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	特に指定しません				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出課題の内容により評価。		
	レポート	100%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	良質のリハビリテーションサービスの提供には、関係職種との連携が不可欠であり、そのためには各職種の役割を理解する必要がある。関連職種の講義内容はレポートにまとめておくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	チームアプローチ	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を知る		
	2	職種間の相互理解	理学療法士と作業療法士の相互理解が連携の基礎であることを知る		
	3	医療ソーシャルワーカーとは	医療ソーシャルワーカーの仕事、チームワーク		
	4	理学療法士とは	理学療法士の仕事、チームワーク		
	5	作業療法士とは	作業療法士の仕事、チームワーク		
	6	言語聴覚士とは	言語聴覚士の仕事、チームワーク		
	7	看護師とは	看護師の仕事、チームワーク		
	8	チーム連携のありかた	グループ討議とまとめを通じて連携の重要性への理解を深める		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	チーム関係論 23p305	担当教員 (実務経験)	竹中 謙将 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員	和田 英峰
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員	佐々木 勇輝
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内児童福祉施設にて言語聴覚士として6年間勤務
		担当教員	齋藤 麻衣子
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて看護師として4年勤務
		担当教員	綾部 潤和
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて医療ソーシャルワーカーとして勤務
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	地域包括マネジメント論 23p306		担当教員 (実務経験)	武田 祐貴 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務		
対象年次・学期	3年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		8	時間数	15時間
授業目的	多様な健康レベルの人の在宅移行可能性を推進するために、関連する保健医療福祉の諸制度や歴史を概観し、質の高い在宅リハを提供するために必要な知識であるケアマネジメント、関係機関・職種との役割と関係性を学ぶ。					
到達目標	幅広い在宅リハにおける活動の展望を見据え、地域における活動の現状の分析を行い、生活の質を重視した退院支援・調整、地域のネットワーク構築の方法やあるべき制度について理解する。					
テキスト・参考図書等	ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル 地域包括ケアにおけるPT・OTの役割					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上が合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムの構築などにより、理学療法士に求められる役割や知識が変化している。理学療法士を取り巻く環境の変化に対応できるよう学ぶこと。					
履修主題・履修内容		履修主題	履修内容			
	1	地域リハ活動・地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要を学ぶ			
	2	地域リハにおける関連諸制度	地域リハに関連する諸制度について学ぶ			
	3	地域リハにおける関連他職種	地域リハに関連する他職種について学ぶ			
	4	地域生活への移行	退院時に必要な地域生活の準備について学ぶ			
	5	地域生活におけるライフステージごとの課題	各年代における地域生活の課題について学ぶ			
	6	地域包括ケアと多職種連携1	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ(自己紹介、各専門職種の特徴)			
	7	地域包括ケアと多職種連携2	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ(各専門職学生による事例検討)			
	8	地域包括ケアと多職種連携3	他学科の学生とのグループワークを通じて多職種連携を学ぶ(発表)			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	理学療法概論Ⅱ 23p307		担当教員 (実務経験)	吉田 香織 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	・理学療法士に求められる資質について再考し、自らの課題を確認する。理学療法を実施する上で必要な記録、リスク管理等について学ぶ。					
到達目標	・理学療法に必要な記録、医療安全、リスク管理等について理解を深め、臨床での実践に繋げる。					
テキスト・ 参考図書等	公衆衛生がみえる 第3版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	履修した内容を単なる知識と捉えるのではなく、今後、自分が「どのような姿勢で臨床に臨むか」を考えること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション、「2年間の振り返りと今後に向けて」、PTの脂質とは1	授業オリエンテーション グループ討議			
	2	PTの資質とは2	グループ討議・発表			
	3	公衆衛生、健康の概念と理学療法	公衆衛生の概念について学習する			
	4	医療の質と安全の確保1	医療の質の評価、リスクについて学習する			
	5	医療の質と安全の確保2	医療の場面でのリスクマネジメントについて学習する			
	6	院内感染対策	感染予防、感染対策について学習する			
	7	診療記録	臨床で必要な記録、報告書について学習する			
	8	診療報酬	診療報酬について学習する			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	理学療法研究法Ⅲ 23p308		担当教員 (実務経験)	吉田 香織 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	理学療法における研究法の概要を学ぶ。また研究を進めたり論文を理解するために不可欠な統計学の知識についても学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究を進める上で必要な情報収集・文献の読み方・問題の掘り下げ方・科学的思考・論文の書き方・報告の仕方等について理解する。 学生が選んだテーマに沿って、インフォームドコンセントや統計手法を組み立て実践する。 				
テキスト・参考図書等	最新理学療法学講座 理学療法研究法 公衆衛生がみえる 第3版 15レクチャーシリーズリハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	研究手法について学習することは、文献の知識を活用し臨床に役立てることに繋がる。暗記ではなく理解することを心がけること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、研究とは	オリエンテーション、研究の意義、概要、研究の流れ		
	2	研究デザインの基礎知識	研究デザインの概要、種類について学習する		
	3	卒論発表聴講	卒業論文発表会を聴講する		
	4	論文の種類と構成	論文の種類、構成について学習する		
	5	文献検索・文献の要約	文献検索の方法について学び文献を要約する		
	6	文献の読み方	文献の批判的精読を行う		
	7	EBM・EBPT	EBMの概要と手法		
	8	インフォームド・コンセント	信頼できる研究を行うためには(信頼性、妥当性)		
	9	統計学的解析の進め方1	データの尺度・特性・グラフ		
	10	統計学的解析の進め方2	推定と検定の基礎1		
	11	統計学的解析の進め方3	推定と検定の基礎2		
	12	統計学的解析の進め方4	推定と検定の基礎3		
	13	統計学的解析の進め方5	診断・検査の指標(感度、特異度)		
	14	研究方法論1	研究対象、方法、研究計画の立て方		
15	研究方法論2	先行研究の活用・インフォームドコンセントの実際			

授業科目 (科目ID)	理学療法評価法Ⅲ 23p308	担当教員 (実務経験)	元木 純 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価に必要な検査・測定手技の正確性、迅速性、再現性を養い、これまでに学習した評価法の知識・技術を確かなものとする。 ・理学療法評価の臨床応用の方法について学ぶ。 ・得られた理学療法評価の結果を治療に結びつけるための思考過程を学ぶ。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な疾患に対する理学療法評価の臨床応用について学び、治療に結びつけるための思考過程と実践能力を身につける。 				
テキスト・ 参考図書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 理学療法評価学 改訂第6版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	実技試験において、100点満点中60点以上が合格とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必要な知識について復習をして臨むこと。 ・授業は動きやすい、実習がしやすい格好で臨むこと。 				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	脳血管疾患の評価と介助、治療①	主に脳卒中片麻痺患者の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習		
	2	脳血管疾患の評価と介助、治療②			
	3	脳血管疾患の評価と介助、治療③			
	4	脳血管疾患の評価と介助、治療④			
	5	神経筋疾患の評価と介助、治療①	主にパーキンソン病患者の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習		
	6	神経筋疾患の評価と介助、治療②			
	7	神経筋疾患の評価と介助、治療③			
	8	神経筋疾患の評価と介助、治療④			
	9	運動器疾患の評価と介助、治療①	運動器疾患の評価、介助における臨床応用の方法に関する実技 得られた評価結果を治療につなげるための思考過程の学習		
	10	運動器疾患の評価と介助、治療②			
	11	運動器疾患の評価と介助、治療③			
	12	運動器疾患の評価と介助、治療④			
	13	脳血管疾患のまとめ	これまでに学習した内容についてのまとめ		
	14	神経筋疾患のまとめ			
15	運動器疾患のまとめ				

授業科目 (科目ID)	物理療法実習 23p310		担当教員 (実務経験)	吉田 智子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科で理学療法士として10年以上勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	2年次の物理療法に続き、各療法についての定義、目的、効果と適応、手段、リスク管理など実習を通じて学ぶ。				
到達目標	各療法についての定義、目的、効果と適応、手段、リスク管理などを学び、症状に対して適切な方法を選択・実施できる。事象の説明に必要な研究を組み立て、実施できる。研究テーマについて他者に説明できる。				
テキスト・参考図書等	理学療法学テキストX 物理療法 第2版 神陵文庫				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	定期試験90%、提出物、発表内容10%にて評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の留意事項	講義と実際の物理療法機器を使用した実習を組み合わせるため、欠席しないように心がけること。また、グループワークでは研究報告書をまとめる力も必要となるため、日頃から論文などに目を通すように心がけること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション			
	2	電気について	電気刺激の要素		
	3	低周波療法	末梢神経障害の通電療法		
	4	低周波療法	末梢神経障害の通電療法		
	5	低周波療法	末梢神経障害の通電療法		
	6	低周波療法	末梢神経障害の通電療法		
	7	光線療法	光線療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について		
	8	光線療法	光線療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について		
	9	牽引療法	頸椎牽引・腰椎牽引		
	10	牽引療法	頸椎牽引・腰椎牽引		
	11	マッサージ	手技		
	12	マッサージ	手技		
	13	水治療法	部分浴・全身浴		
	14	水治療法	部分浴・全身浴		
15	水治療法	部分浴・全身浴			

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	グループワーク	グループごとの研究
	17	グループワーク	グループごとの研究
	18	グループワーク	グループごとの研究
	19	グループワーク	グループごとの研究
	20	グループワーク	グループごとの研究
	21	グループワーク	グループごとの研究
	22	グループ発表	研究発表
	23	グループ発表	研究発表